

発行  
大島郡医師会  
奄美市名瀬塩浜町 3-10  
TEL0997-52-0598  
FAX0997-54-0597  
印刷 南海日日新聞社

# 大島郡医師会だより

No.95 2022.10.1

院丘所ン所丘  
病業事事業  
会の護事  
師の訪問看護ステーション  
虹訪問看護ステーション所丘  
居宅介護支援事業  
グループホーム虹の園  
養護老人ホームなぎさ園  
臨床検査センター



赴任のご挨拶

医療法人社団 悠翔会

所長 小林 真介

大島郡医師会の先生方、いつも  
大変お世話になつております。  
令和4年7月より与論町パナウ  
ル診療所に赴任しました小林真  
介と申します。

私は、埼玉県の毛呂山町という田舎町で生まれ、もともと鹿児島には縁がありませんでした。中学受験のときに、毎日往復3時間かけて東京の学校に通うのが大変そうだったので、寮が学校の敷地内にある鹿児島のラ・サールに進学しました。ちなみに3歳上の兄も同じ理由でラ・サールに進学していました。

もともと古典や漢文が好きだつたので、学校の教師になろうと思い、ラ・サールを卒業後は東京大学の文科三類に進学しました。そのまま文学部を卒業したのですが、小児科医をしていた祖母の薦めもあり医学部を再受験することに決め、鹿児島大学医学部に再入学しました。鹿児島大学を選んだ理由は、鹿大は入試で再受験生を差別しない（今はわかりませんが、当時は再受験生というだけで面接で低い点数しかもらえない大学も多數ありました）ことで有名であり、鹿児島の中高出身だつた

鹿大卒業後は弟が獨協医大を出て栃木県の病院で働いていたご縁もあり、栃木県内の病院で初期研修、内科後期研修を経て消化器内科医として働いていました。30代半ばの頃に在宅医療に出会い、病気でなくその人の生活を見るスタイルが自分に向いているように思い、現在も所属している「悠翔会」という首都圏で在宅専門のクリニックを開設していける医療法人に入職しました。その後、5年ほど同法人が運営する葉県柏市内の在宅クリニックで院長をしておりました。

所属する医療法人悠翔会の佐々木理事長が古川先生と知り合いだつたこともあり、パナウル

クリニツクが再開して2か月  
がたちましたが、内科だけではなく、  
小児科、精神科、耳鼻科、皮膚科、眼科、整形外科、外科などあらゆる患者さんがいらつ  
しゃるので、私も診察や処置をしながら勉強の毎日です。昼休みには在宅医療もしており、在  
宅の患者さん方も診療所が再開して喜んでくださっています。

それから柏のクリニックを後任の先生に引き継いで、今年の3月末に設備に引っ越しして診療所再開の準備を重ねてまいりました。多くの町民の皆さんにご協力いただき、おかげさまで7月1日に無事診療所を再開できました。

診療所の再開に向けて、後任として打診されたのが令和3年の9月のことです。佐々木先生と一緒に与論を訪れ、古川先生に案内していただきました。私も40代になり色々挑戦する時期かなと思い、「私は良ければ、ぜひやらせてほしいです」とお返事しました。自分がパナウルの院長をすることに不思議な縁を感じました。

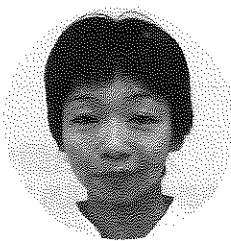
で、温かく見守つていただけますと幸いです。先生方におかれましては、ご指導のほど何卒宜しくお願ひ申し上げます。

家族は、妻と子供が二人おりますが、上の二人（長男と長女）が高校生のため、妻と長男・長女は都内（巢鴨）に住んでおります。次男が小学3年生なのですが、9月から与論の小学校に転入してくれました。そのため普段は映画クレイマー・クレイマーのような生活をして、慣れないと家事も頑張つております。

関東にいるときはウイスキーや赤ワインをよく嗜んでいました。お酒が好きな先生方がいらっしゃれば、ぜひ一緒に飲んでいただければ嬉しいです。

コロナ禍でなかなか直接ご挨拶ができず申し訳ありません。いずれ奄美の総会の際にご挨拶させて頂きたく存じます。今後ともよろしくお願ひいたします。





## 園長就任のご挨拶

國立療養所 奕美和光園

園長 馬場 まゆみ

大島郡医師会関係者の皆様には、入所者の診療や当直など、平素より大

光園との出会い、Iターン移住（2011年）、奄美和光園入所者自治会の

ております。令和4年4月付で第17代国立療養所奄美和光園長を拝命いたしました馬場まゆみと申します。本業である「皮膚科専門医の馬場」の方が、馴染みがある方もいらっしゃるしやるかもしれません。

来の再開と入院制度の導入、副園長昇任（2017年10月）を経て、加納達雄・前園長（現・特命副園長）の任期満了の後任として園長に就任するまで、わずか15年程の出来事でした。

だきましたので、紙面にて改めてご挨拶させていただきます。

設立より幾多の困難を乗り越えて、大勢の方々によつて築かれた奄美和光園の園長となつたことを誇りに思う一方、奄美和光園の将来のことなどを考えますと施設長としての職責の重さを痛感しておりますが、今年5月の病院機能評価受審を皮切りに、一つ一つ乗り越えていくしかないと、少

を占めます。私が赴任した2011年4月の入所者数は43名でしたが、2022年8月の入所者数は17名まで減少し、平均年齢は88歳と高齢化が進んでいます。精神的にもお元気ですが、身体的な衰えは避けられません。

入所の方々は地域との交流を望んでおり、夏

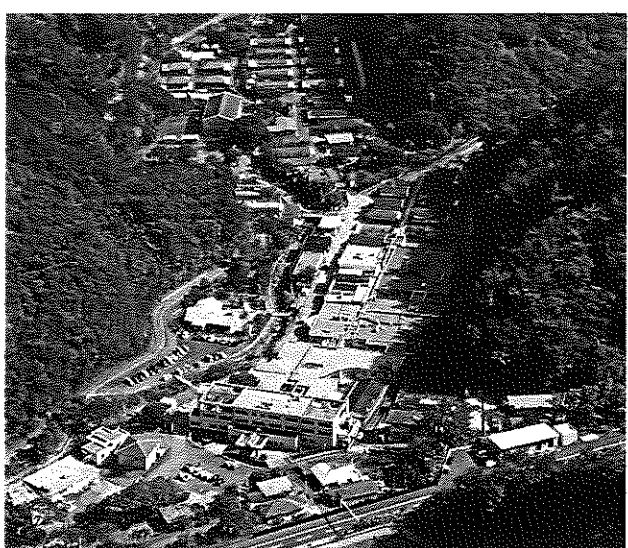
この夏はOVID-19 第7波により医療体制がひつ迫し、関係者の皆様におかれましてはご苦労の日々が続いていますと存じております。

し開き直り始めた今日この頃です。なんでも第17代園長の「17」という数字は、「あなたの思考は正しい方向を向いているので、明るい気持ちを持ち続けて」というメッセージージの数字」だそうです。

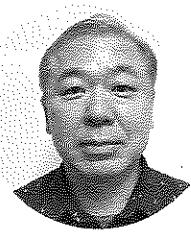
奄美和光園は奄美群島唯一のハンセン病療養所であり、回復者の方々の終の棲家としての使命を担う施設です。ハンセン病後遺症のケア、生活習慣病、老年医療などが医療の中心であり、それ以上に「穏やかな生活を支えること」が業務の大半

祭りやゲートボール大会はその象徴的な行事でしたが、加齢によりプレーする入所者がいなくなりゲートボール大会は2019年の第35回大会をもって幕を閉じました。コロナ禍のため夏祭りも中止や縮小を余儀なくされており、また2020年8月に完成した奄美和光園交流会館（歴史資料館）は入所者と職員のみで開館セレモニーこそ開催したものの、一般公開できなしままで2年が過ぎました。

開園した奄美和光園は、来年80周年を迎えます。COVID-19が1日も早く終息し、入所者と地域の方々が交流できる日々が戻ること、盛大な80周年式典を開催できることを心待ちにしております。



※和光園上空から



## 院長就任のご挨拶

奄美中央病院

院長 平元良英

この春奄美中央病院の院長に就任しました平元良英と申します。どうぞよろしくお願ひします。

鹿児島県出水市で高校まで過ごし、宮崎で大学生活を送りました。ヨツト部、学生自治会、地域医療研究会などの忙しい学生生活を経て1989年に医師になりました。学生時代、ボリクリでは時間外に小児科の子供らとの遊びに没頭し、小児科医になることを真剣に考えました。しかし一方で友人らと山間部の医療フィールドに参加したり、地域の病院検診を経験して地域医療への志向を自覚し、地域医療に力を入れていた医療生協のグループであり民主医療機関連合（民医連）加盟で

あつた鹿児島生協病院での初期研修を決意しました。その後京都大学胸部疾患研究所で呼吸器内科のサブスペシャリティ研修もしつつ地域の病院で診療所での診療を繰り返してきました。

奄美群島との出会いは、初期研修後の1992年春、徳之島診療所に赴任したことが始まりです。1年先輩の所長とともにに入院、外来、訪問診療、交互の夜当番などをしても体力勝負の2年間を送りました。今のようにインターネットはなく、困った症例は必死で文献を請求し、近くにおられた宮上先生や遠くの専門家に電話で教えを乞うて乗り越えました。どなたに相談しても優しく指導をし

した。診療所を運営する医療生活協同組合には、班会という小さな集まりがあり、夜な夜な出かけでは医療講和を繰り返しました。肝臓病学習会なのに焼酎を飲まされて潰されかけたり、糖尿病学習会で山のようなご馳走を食べさせて頂いたりして、島の方々の愛情（？）を感じて楽しかつたです。

その後転勤を重ねましたが、この徳之島での思い出が今の私の根底にあります。奄美中央病院には2002年～2007年に呼吸器内科医として赴任し現在に至ります。今や奄美は第二の故郷になりました。

れ、徐々に医療機器と員を増やして病院へと拡大しました。当初は急性期治療の充実を第一目標に掲げていて、1980年代に全麻手術、気管支鏡、心臓カテーテル検査などの導入も行いました。

現在では県立島病院をはじめいくつもの病院で急性期医療の充実がめざましく、私どもの果たす役割は変わってきました。島のすべての医療機関、介護福祉施設と協力し、一体となつて島の医療を守る、その一翼を担えるよう役割を自覚し頑張りたいと思いま

す。とりわけ、保健・予防活動、門戸の広いプラティマリー医療活動、在宅との橋渡しとなるリハビリ、そして在宅医療などが、私どもで力を入れて



## 研修医のための救急医療セミナー in 奄美大島



9月9日(金)「救急の日」の午後7時から、県立大島病院救命救急センター4F研修ホールにおいて、「研修医のための救急医療セミナー in 奄美大島」(主催:大島郡医師会 共催:県立大島病院臨床研修センター)が開催されました。

研修医の先生方を主な対象とした今回のセミナーでは、メディアでも活躍されている福井大学医学部付属病院救急科総合診療部教授の林寛之先生を講師としてお迎えし、座長は同じ自治医科大学出身で県立大島病院臨床研修センター長兼総合診療科部長の森田喜紀先生に引き受けいただきました。

「unsuspected killer in ER 見逃すと怖い救急疾患」と題した90分にわたる林先生の熱心な語り口によるご講演は、豊富なデータと臨床経験に基づく非常に説得的な内容でありましたが、救急現場の診断においても、いろいろな機械を使った検査や採血、画像の撮影に加え、患者さんの生活背景を聞き出すコミュニケーションが重要であることを強調されていた点が印象的でした。

新型コロナウイルス感染症の第7波が少し落ち着いたとはいえたまま終わりの見えない状況下での開催となりましたが、県立大島病院で研修中の先生方をはじめ総勢約50名の医師や看護師の方々に参加していただき、質疑応答においても活発に意見が交わされ時間を超過するなど盛況のうちに救急医療セミナーは無事幕を下ろすことができました。

**(林寛之先生ご略歴)** 1986年自治医科大学卒業。1991年カナダトロント総合病院救急部臨床研修、1993年から僻地医療を経て1997年福井県立病院救命救急センター勤務。医長を経て2011年4月より現職。「救急外来・当直で魅せる問題解決コンピテンシー」(南山堂)、「Dr.林の高齢者救急・急変お助け本」(日本医事新報社)、「ステップビヨンドレジデンント1~7」(羊土社)、「Dr.林の笑劇的救急問答1~16」(ケアネット)、「Dr.林の当直裏御法度」(三輪書店)など著書多数。



**大島郡医師会理事 業務分担表 (令和4・5年度)**

役職名	令和4・5年度	役職名	令和4・5年度
会長	稻源一郎	医療保険担当理事	碩伸一朗
副会長	嘉川潤一	労災・自賠責担当理事	宮上寛之
代議員	稻源一郎、嘉川潤一	医事紛争担当理事	稻源一郎
予備代議員	野口義夫、津畠修	鹿児島救急医学会評議委員	稻源一郎
医師連盟役員	向井奉文(委員長)、稻源一郎(副委員長)	予防接種担当理事	岩城陽一
国民健康保険組合会議員	野口義夫	医療情報システム委員	稻源一郎
医師信用組合役員	稻源一郎	学術担当理事	野崎義弘
医師信用組合総代3名	野口義夫、桂久和、町田実豊	カンファレンス担当理事	野崎義弘
医師協同組合総代4名	益田正隆、野崎義弘、碩伸一朗、津畠修	大島郡医師会病院担当理事	嘉川潤一
会計担当理事	朝沼榎	虹の丘担当理事	野口義夫
庶務担当理事	津畠修	蒼寿会なぎさ園担当理事	稻源一郎
広報担当理事	朝沼榎	情報開示担当理事	益田正隆
生涯教育担当理事	野崎義弘	奄美地域保健医療福祉協議会	稻源一郎
医事法制担当理事	向井奉文	名瀬保健所ATL連絡協議会	稻源一郎
母子健康担当理事	向井奉文	エイズ対策委員会	稻源一郎
学校保健担当理事	岩城陽一	地域医療連携担当理事	桂久和、野崎義弘、岩城陽一
介護保険担当理事	徳田英弘	医療廃棄物担当理事	朝沼榎
産業保健委員会担当理事	稻源一郎	特定健診担当理事	嘉川潤一
産業医担当理事	嘉川潤一	地域医療ビジョン担当理事	稻源一郎
スポーツ医学・健康教育担当理事	益田正隆	共同利用施設在宅部門担当理事	稻源一郎
救急医療担当理事	野口義夫		

## 鹿児島県医師会看護業務功労者表彰



### 大島郡医師会病院

#### 安岡 初美 さん

この度は、看護業務功労者としてこの様な賞を頂き驚きと共に大変嬉しく光栄に思います。これまで家族や職場の方の支えがあって、今まで勤務する事が出来ました事を感謝しています。今、コロナ禍で医療現場も大変な時ですが、これからも私に出来る事を精一杯頑張っていきたいと思います。

#### 田畠ひとみ さん

この度は、身に余る賞をいただき大変うれしく思います。長年看護業務に携われたのも多くの先輩方や同僚の支えで今まで勤務することが出来たと実感しております。これからも精一杯業務に邁進していきたいと思います。

#### 吉田 泰江 さん

この度は、私にとって身に余る賞を頂き大変嬉しく光栄に思います。医師会病院に入職し28年の月日が過ぎました。ここまでこれたのもスタッフの皆様に支えて頂いたおかげで感謝しております。来年の3月で定年を迎えます。残りの日々を患者様に寄り添い看護業務に精進していきたいと思います。

#### 登山 初美 さん

この度は永年勤続表彰を頂き、大変嬉しく光栄に思います。医師会病院に勤務し、沢山の方々との出会いがあり、皆さんに支えられこれまで勤務することができます。心から感謝の気持ちで一杯です。現在は医療の現場を離れ、平成29年度から虹の丘で看護師長として勤務しています。介護の世界では医療との違いや認識の違いも多々ありますが、日々精進を重ね、ようやく形が見えてきたようにも感じます。これからも虹の丘の基本理念もあります「誠意・優しさ・信頼」を大切に、地域と施設の架け橋になれるよう、楽しく元気に頑張りたいと思います。これからも宜しくお願ひ致します。

#### 虹の丘

#### 宮上 博成 さん

この度は、看護業務功労者という私にとっては身に余る賞を頂き、ただただ驚いております。入職時より、先輩・同僚の支えで長年勤務することができたことを感謝しております。今後とも初心を忘れず患者様に寄り添うことを常に心がけ、看護業務を頑張っていきたいと思います。



#### 徳之島病院

## 令和4年度救急医療功労者(団体)厚生労働大臣賞表彰

この度、公益社団法人大島郡医師会は、令和4年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰の受賞者として団体表彰されることとなりました。これらの表彰は、厚生労働大臣が都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策等の推進に貢献した個人や医療機関等の団体の功績をたたえたものです。

当医師会の救急医療は、瀬戸内地区、徳之島地区及び沖永良部地区においては、外来で対応可能な軽度の救急患者に対応する休日昼間の初期救急医療を在宅当番医制事業により対応しており、その他の地域においては、救急告示病院である県立大島病院、奄美中央病院、宮上病院等により隨時対応がなされています。

例年9月の救急医療週間には、一般市民を対象とした救急医療及び災害時医療の普及啓発を図るために、県立大島病院救命救急センターや大島地区消防組合等の協力のもと、当医師会により「救急医療講演会・講習会」や地域の救急医療体制の向上に資する意見交換会を開催しています。また、自治体で開催される総合防災訓練では当医師会が医療救護班を担い、多くの会員がトリアージ訓練等に参加協力しています。

このような栄誉ある表彰を受けたのは、会員の先生方、医療機関ほか救急医療担当理事のご尽力により長年にわたり引き継がれ積み上げられた賜物だと思います。今後とも地域住民が安心して暮らせるよう、より一層救急医療の向上に寄与する活動を行ってまいります。

(大島郡医師会会长 稲 源一郎)

**【第48回地域包括ケア交流会】テーマ：「急変時の対応について」**  
 令和4年6月27日(月)18時30分～20時 於：大島郡医師会館4階ホール

1. 講話「よりよい最期を迎えるために～大島地域MC心肺蘇生DNARプロトコールについて～」  
 講師：県立大島病院 救命救急センター長 中村 健太郎 医師



第48回は「急変時の対応」をテーマに、県立大島病院救命救急センター長の中村健太郎先生の講話と多職種での意見交換を行いました。中村先生からは①High Quality CPRについて②症例提示③DNARプロトコールについて、を中心に、正しい救命活動をはじめ救命救急に関して幅広くお話をいただきました。今回は特に心肺蘇生を望まない傷病者の救命搬送時の対応に苦慮した症例を振り返り、その課題解決のために昨年度発足した「DNAR・ACP心肺蘇生」大島地区MC協議会ワーキンググループの活動、その成果として4月から始まった心肺蘇生を望まない傷病者への奄美群島での取り組みである「大島地区MC心肺蘇生DNARプロトコール」について説明がありました。そのほか「臓器提供」についてお話しいただき、参加された方々は興味深く聴講されていました。後半のグループワークでは、「大島地区MC心肺蘇生DNARプロトコール」の内容を共有した上で、もっと知りたい事、自分の役割や連携したい職種についての意見交換がなされました。急変時への備えとして、日頃からの「ACP(人生会議)」の取り組みや、かかりつけ医との連携、看取りの場の雰囲気づくり、多職種で連携しチームで動く、などさまざまな意見が交わされました。講師の中村先生へも数多くの質問が集まり、それぞれに丁寧に応えてくださいました。会場では医師、看護師を始め、リハビリ職やケアマネジャー、病院の医療ソーシャルワーカー等様々な職種の方々が参加し、交流を深めました。

**【第49回地域包括ケア交流会】テーマ：「急性期のリハビリテーション」**  
 令和4年8月22日(月)18時30分～19時30分 於：大島郡医師会館4階ホール

1. 講話：「県立大島病院の急性期リハビリテーション」

講師：県立大島病院 リハビリテーション部 岩元 祐太 認定作業療法士



昨年度の後半から様々な角度で「リハビリテーション」に関するテーマを取り上げてきた交流会ですが、今回は「急性期のリハビリテーション」ということで、県立大島病院リハビリテーション部に所属する認定作業療法士 岩元祐太氏に「県立大島病院の急性期リハビリテーション」と題し講話していただきました。岩元氏からは「急性期リハビリテーションの役割」や「県立大島病院での急性期リハビリテーション(救命救急センター編)」についてグラフを交えた詳しい説明と、実際に呼吸器を装着した方のリハビリテーションの様子やビフォーアフターの動画紹介があり、目を見張るものがありました。またリハビリ職が行う重篤な合併症を予防するための早期運動療法や心理的介入、ICU日記の導入などの具体的な実施内容や、医師が積極的に声掛けし、看護師、栄養士らと一緒に行う多職種カンファレンスについての紹介があり、多職種チーム一体となってリハビリテーションに取り組んでおられることを理解することができました。今回はグループワークでの意見交換の時間を短縮しましたが、ケアマネジャーから「病院での多職種カンファレンスの内容について詳しく知りたい」や、病院勤務のリハビリ職からは「ケアマネジャーの入院時情報提供書についてもっと知りたい」等の意見が聞かれ、多職種による連携や入院退院時の在宅チームとの連携の重要性が、それぞれのグループで話題となりました。

医療・介護・福祉・行政等の方々を対象に、偶数月の第4月曜日に開催している交流会です。今後も定期的に開催予定ですので、興味のある方はお気軽にお問い合わせください。(担当:在宅医療連携支援センター0997-55-6381)



## 奄美の自然を考える会顧問 田畠 満大

### <イタドリについて>

奄美では、あまりなじみがない植物かもしれません、民間薬として国内ではよく知られた薬用植物です。タデ科ソバカズラ属イタドリで、学名は *Fallopia japonica* で、属名のファロピア人命に由来、*Japonica* は日本の、つまりイタドリを表す学名です。

方言名を調べてみると、ブラ(笠利・名瀬)、カワボー(奄美大島)、タデ(字検)の資料があります。調査をしてみるとまだまだ出てくるのではと思ひます。各集落別に人との関わりあいや使い方で方言が違いますので、名前がわかる方は教えてください。前置きはこれぐらいにして本題に移ります。

「原色牧野和漢薬草大図鑑」北竜館発行によると、【薬用部分】根茎〈虎杖根(こじょうこん)〉根茎は秋から冬、地上部が枯れた頃に掘り取り、水洗いした後、生のまま小さく切り、風通しの良い場所で日干しにする。【成分】アントラキノン誘導体のポリゴニンの他、ポリダチン、レスベラトロールなどを含み、加水分解することによってエモジン、エモジンメチルエーテルを発生する。【薬効】アントラキノン誘導体は抗菌、鎮咳(ちんかい)、降血脂(こうけいし)利尿などの作用があり緩下剤(かんげざい)に用いる他、月経不順、蕁麻疹(じんましん)、夜尿症、気管支炎などにも効果がある。【使用法】便秘には1日量9~15gに400mlの水を加え、半量になるまで煎じ、かすを取り除いて、空腹時に2~3回に分けて服用する。蕁麻疹には虎杖(こじょう)、人参、細辛、食塩各1.3gを1日量として煎じ、服用する。その他、春にたけのこ状に伸びる若芽は外皮を除くと食用になり、生食したり、塩漬けにするが、ショウ酸を多く含むため、多食すると下痢をしたり、体内でショウ酸石灰が腎結石や尿道結石の原因となるため注意が必要です。次に、「これで分かる薬用植物」中田福市、中田喜久子共著から、【成分】根茎にアントキノン誘導体のポリゴニン、エンジン、葉にフラボノイドのレイノートリン、ビタミンCを、若い葉には酒石酸、リンゴ酸などの酸があります。【作用】緩下、利尿、通経。【食用】早春に出てくる若い茎は、生で皮を剥いで塩をつけて食べられます。年配の方には幼少の頃にイタドリを食べた懐かしい思い出がおありかと思います。若い茎には、リソゴ酸や酒石酸などを含んでいますので、やや酸味があり結構おいしいのですが、食べ過ぎると含まれている酸のために腹を壊しますので塩漬けにします。繊維が多いので、機能性食品と考えて食べると良いでしょう。

【どうして効くか】薬効成分の中のエモジンはアントラキノン誘導体の加水分解物ですが、大黄にも含まれている緩下、瀉下、抗菌、利尿作用のある植物色素で、そのエモジン色素の刺激によって腸の運動が盛んになることで便通が良くなります。【用法】明鏡役として、①利尿や緩下に1日5~15gを煎じて空腹時に分服。②生理不順には、生のまま10g位を煎じて飲みます。③夜尿症に使う



地方もありますとのことでした。さらに、イタドリをウィキペディアで調べたら、詳しい情報がありますとのことでした。先ず、名称の語源は、傷薬として若葉を揉んでつけると血が止まり、痛みが和らいだ事から「痛み取り」が転訛してつけられたというのが通説になっている。平安時代初期の本草書『本草和名』(918年)にはイタドリの名が記されている。漢名では「虎杖」と書き、軽くて丈夫なイタドリの茎が杖に使われ、茎の虎班模様から虎杖と呼ばれたことによる。地方名として、スカンボ(酸模)など。民間薬として、根にアントラキノン誘導体のポリゴニンを含み、加水分解するとエモジン、エモジンメチルエーテルなどを生じる。これらの成分が、緩やかに下痢を起こす緩下作用、月経不順を整える通経作用、尿の出をよくする利尿作用として働きます。薬効として、緩下、利尿、通経、常習便秘、膀胱炎、膀胱結石、月経不順、産後の悪露に効用がある上で老人や婦人にも安全とされ、民間では緩下薬として用いられている。

冬に地上部が枯れたら根茎を掘り上げて、水洗い後に細かく切り天日乾燥させる。これは虎杖根といふ生薬になる。便秘や月経不順には、虎杖根を1日量5~15gを0.5~0.6lの水で半量になるまで煎じ、食間3回に分けて服用すると良いとされている。また、甘草(かんぞう)と一緒に煎じて咳を鎮めるために利用された。

若葉を揉んで擦り傷などの出血した箇所に当てるとき多少ながら止血作用があり、痛みを和らげるのに役立つとされた。なお、生薬となる虎杖根は厚生労働省が定める「専ら医薬品として使用される成分本質(原材料)リスト」に収録されており、医薬品でないサプリメントでは用いられなくなっている事情が存在する。(なお、わかめについては「医薬品的効能を標榜しない限り医薬品と判断しない成分本質(原材料)リスト」に収録されている)イタドリの根はレスベラトロールを比較的多く含み、海外では廉価(れんか)なレスベラトロールサプリメントの材料として用いられているが日本では、この事情により、イタドリの根、茎を用いた医薬品ではないレスベラトロールサプリメントは違法の扱いとなっている。

山菜としても利用。春の赤紫色でタケノコ状の新芽・若い茎は柔らかく、「スカンボ」などと称して食用になり、寝際から折り取り皮を剥いで山菜とする。酸味がショウ酸で、多少のえぐみもあり、そのまま大量に摂取すると下痢を起こす原因になり、健康への影響を考えれば注意が必要である。

新芽は外皮を取り除き生食するか、軽く湯通して灰汁を抜き酢物、油炒めにし、醤油、塩、ゴマなどで味付けしたり、肉や魚などと一緒に煮付け。また塩漬けにして保存するなど、食べる時は塩抜きして食べる。山菜として本格的に利用する時には、茹でて水で晒すことで灰汁をとるが、そうすると爽やかな酸味も失われてしまう。高知県では、苦汁成分を含んだら塩で揉む。こうすると、苦汁に含まれるマグネシウムイオンとショウ酸イオンが結合し、不溶性のショウ酸マグネシウムとなる。その結果ショウ酸以外の有機酸は残したままショウ酸だけ除去できる。

以上のように、イタドリの今までの情報でしたが、これから的新しい情報に耳を傾け、生活に取り入れたらと思います。(高知県立大などが新しい研究に取り組んでいるようです)

## 学术講演会・研修会

- ◆10月26日(水)19:00～20:40 ※オンライン併用  
【令和4年度第1回循環器病対策研修会】 大島郡医師会館4Fホールほか  
※日医・県医生涯教育教育講座 1.5 単位  
※日医認定産業医研修会（認定医：専門 1.5 単位 / 未認定医：後期 1.5 単位）  
講演1 「循環器病対策基本法と基本計画について（仮）」  
　講師：鹿児島大学大学院心臓血管・高血圧内科学教授 大石 充  
講演2 「脳卒中対策について（仮）」  
　講師：鹿児島医療センター脳・血管内科部長／脳卒中センター長 松岡 秀樹

◆10月30日(日)10:00～17:15 ※オンライン開催（個人聴講）  
【令和4年度「日医かかりつけ医機能研修制度応用研修会」第一3回】

---

◆11月 2日(水)19:00～20:00 ※オンライン開催（個人聴講）  
【大島郡医師会漢方学術講演会】(ツムラとの共催)  
※日医・県医認定生涯教育教育講座 1 単位  
　座長：むかいクリニック院長 向井 奉文  
特別講演「高齢者医療における漢方治療～認知症の周辺症状を中心に～」  
　演者：けいめい記念病院副院长 岡原 一徳

◆11月18日(金)18:30～20:40 ※オンライン開催（個人聴講）  
【日本医師会主催 第1回産業医Web研修会】  
※日医生涯教育教育講座 2 単位  
※認定産業医制度生涯研修（専門）2 単位

◆11月25日(金)19:00～20:10 ※オンライン開催（個人聴講）  
【疼痛診療Webセミナー in 奄美】(第一三共との共催)  
※日医・県医認定生涯教育教育講座 1 単位  
　座長：県立大島病院整形外科部長 堀川 良治  
講演1 「手の外科と神経障害性疼痛関連テーマ（仮）」  
　演者：昭和大学藤が丘病院形成外科講師 高木 信介  
講演2 「神経障害性疼痛の診療（仮）」  
　演者：前原総合医療病院ペインクリニック内科・整形外科・麻酔科 前原 光佑

◆11月26日(土)18:30～  
【令和4年度 在宅医療連携支援研修会】 奄美市役所5F会議室

---

◆12月 14日(水)19:00～20:00 ※オンライン開催（個人聴講）  
【大島郡医師会 WEB セミナー（仮）】(第一三共との共催)  
※日医・県医認定生涯教育教育講座 1 単位申請予定

令和三年七月号の大島郡医師会だより紙上で、沖永良部島では「アロエ」のことを方言で「医者いらす」と愛称していると述べた。沖永良部島では、昔から「切り傷」、「やけど」に不可欠な薬草として広

## 伝統の民間治療 その一例

元名瀬市立奄美博物館長  
林蘇喜男

く利用され、水はけの良い土地であれば栽培が容易で今日でも薬草の上位を占めている。えらぶ郷土研究会発行の「奄美植物民俗誌」からアロエ活用による薬効を列挙する。

○胃炎・高血圧・血糖値の改善

- ストレッス性胃炎・血行促進・安眠
  - ：アロエの生葉
  - 胃炎・十二指腸潰瘍・湿疹
  - ：摺りおろしアロエ
  - 動脈硬化や老化予防
  - ：アロエワイン
  - 糖尿病・虚弱体质・胃炎・便秘改善
  - ：アロエ茶
  - 喘息・疲労回復・神経痛
  - ：アロエ酢
  - 血圧・コレステロール下げ・むくみ
  - ：アロエシャーベット
  - 老眼・視力低下・骨粗鬆症・便秘
  - ：アロエスープ、アロエのポタード

編集  
後記

◆今回の表紙は令和3年3月に惜しまれながら閉院した大島郡医師会だより第95号をお届けします。与論町のパナウル診療所が7月に再開され、埼玉原出身の小林真介先生が院長に赴任されたご挨拶を頂きました。在宅サービスの充実を図つていただきたいという先生は、「人生の最期は自分の家で迎えたい」と望む多くの島民の皆さんにとって、とても心強いと思います。また、今年度4月に奄美和光園の園長に就任された馬場まゆみ先生、奄美中央病院院長に就任された平元良英先生にもご挨拶の寄稿をしていただきました。「多忙な中ご協力ありがとうございました」とございました。◆新型コロナに関しては7月末に当医師会が運営している老健施設の人所者様に初めて陽性が確認されました。医療機関

のひつ迫により入院受け入れが難しい中、医師会病院や会員の先生方のご指導、ご支援をいたただきながら、ゾーニング、レッドゾーンでの業務をはじめ、不足に備えての感染対策物資等の調達などそれぞれの担当が役割を發揮し職員一丸となつて取り組んだ結果、8月24日に最後の陽性者が隔離解除となり、入所者様全員大事に至らず終息を迎えることが出来ました。まだ安心はできませんが、この経験を活かし今後とも感染防止対策に日々取り組んでくれることと思います◆この様な大変な思いをした中、嬉しいニュースが入つてきました。今年度鹿児島県から救急医療功労者（団体）として大島郡医師会が推薦され、厚生労働大臣から表彰されることになりました。長年にわたり奄美群島の救急医療活動にご尽力された先輩方の努力の賜物だと思ひます。今後とも地域住民のため、より一層救急医療の向上に事務局としても努めて参りました

○ジユースープ。アロエまぜごはん  
 ○かゆみ・虫刺され・肌荒れ  
 ○アロエ搾り汁  
 ○やけど・あせも・湿疹・打撲  
 ○アロエ湿布  
 ○抜け毛・白髪予防・育毛  
 ○アロエ育毛液  
 ○美肌と保湿・アロエ風呂  
 ○歯痛・歯肉炎・歯周病・口臭・口内

○角質除去・美肌・美容  
：アロエ石鹼

他にも活用法は無限である。奄美の年越しに欠かせない「ウアンファイナヤセ」（豚骨野菜）は、ツバキや「路の茎」などが中心であり、沖永良部島産のツワブキはアカが少なく食材に適しているため、島外からの採集も多いという。